

第1回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会

日時 令和元年8月16日(金)13:30～15:20

場所 東かがわ市役所3階大会議室

■議事次第

2 市長挨拶

委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。協議会を立ち上げた経緯だが、この4月に東かがわ市長に就くまでも、市民の方から交通に関する意見を多くいただいた。特に高齢者の方から、この車社会の中で免許返納後、どうやって病院、買い物に行ったらよいのか不安の声が多かった。交通事情においても、市街地、住宅街、その中でも昭和からあるところ、平成にできたところ、また、里山地域など、地域により実情が大きく異なる。その中で、どのような公共交通のあり方がふさわしいのか、現在様々な科学技術が進んでおり、MaaSや自動運転の実現が待たれるところではあるが、社会実装が実現されるまで、特に地方においてはまだまだ時間がかかると思われ、地域としてどのように交通手段を確保していくか、様々な立場からの意見を頂戴し検討したい。

見てのとおり、様々な方に委員として参加いただいている。事業者の方には、公共交通はボランティアではなく、いかに経済を回していく形で実現できるのか、非現実的な話ではなく、現実的なところ、また、どうすれば実現できるのかという面で議論に参加いただきたい。コミュニティ協議会を中心とした地域の皆様、また公募した市民の方については、地域の実情がどのようなものか、東かがわ市といっても地域により大きく実情が異なる中で、こういう形ができるのではないかと、こういうことで困っているという、地域の実情を出していただきたい。先生方には、専門家の立場で意見を出していただく他、色々な研究をなされ、市外・県外の実情もお分かりかと思うので、それを教えていただきたい。また国や県からも参加していただき、国や県の立場から、こうすればいい、これは難しいなど意見をいただきたい。役所の人間だけで決めたことほど意味をなさないことはないと考えているので、ぜひ皆様からご意見、ご提案を出していただくようお願い申し上げます。

3 委嘱状交付

4 委員紹介

- ・事務局から資料1に沿って説明

5 協議会設立趣旨及び規約の説明、並びに公開要領等の承認

- ・事務局から、資料2に沿って協議会設立趣旨及び規約を説明。

設立趣旨) 地域の実情や住民ニーズに即した公共交通ネットワークの構築のため、本市の現状と今後の課題を整理し地域公共交通のマスタープランとなる「東かがわ市地域公共交通網形成計画」を策定すること。なお、計画は来年の9月をめどに策定する予定。

- ・公開要領、傍聴要領について、委員により、資料3、資料4の通り、承認された。

6 会長及び副会長の選任

- ・事務局案にて、委員により承認された。

会長: 香川高等専門学校 建設環境工学科 准教授 宮崎耕輔

副会長: 香川大学 経済学部 教授 原直行

(会長挨拶) 東かがわ市については、かつて、五名地区、相生地区における移動手段の確保を検討したことがある。本協議会は公共交通について考える場であるが、公共交通をきっかけにして地域のことを考える場と捉えていただき、東かがわ市という地域に生活する場所があり、安全に、安心して暮らしていける地域にするた

めに、公共交通の分野からどのように取り組むのか考えていければと思う。公共交通に限らず、健康で元気に暮らしていける地域にするため、ご意見いただきたい。

(副会長挨拶) 会長をサポートできるように頑張っていきたい。

(市長) 本協議会は市長に対する諮問機関という形をとらせていただく。会には同席しないが、宮崎会長、原副会長、委員の皆様からの忌憚ない意見をもとに、公共交通網形成計画を練りたいので、皆様の力を貸していただきたい。宮崎会長が言われたように、単なる移動手段の確保だけでなく、それを通していかに地域、東かがわ市を作っていくかへとつながっていく。ぜひ、委員の皆様のご協力を賜りたい。

(市長 退席)

7 東かがわ市地域公共交通網形成計画策定について

- ・事務局より、計画策定に係る支援委託業務の公募を行い(株)バイタルリードと業務委託契約を結んだとを報告。
- ・(株)バイタルリードより、令和2年9月末の計画策定に向けた工程表を資料5に沿って説明。
- ・質疑

水口委員:パブリックコメントとは何か。

⇒事務局:地域公共交通網形成計画の素案について市民に意見を聞くもの。

宮崎会長:(4)②2)利用者ニーズ調査でバス・タクシーを対象としているが、鉄道も対象としてほしい。

⇒事務局:2)と3)を絡めながら、ご意見を参考にして調査等を実施していきたい。

有馬委員:市民アンケートの年齢層はどのあたりを想定しているか。

⇒事務局:年齢層は特に決めずランダムに抽出し、アンケートを実施する。その結果から年齢や属性等に合ったニーズ等を分析し、把握したいと考える。

宮崎会長:現状把握にあたって委員にご協力頂く面もあると思うので、よろしくお願ひしたい。

8 地域公共交通に関する意見交換

- ・水口委員:小海地区は、住民600人弱のうち高齢者が42%と約半数。今年度の新生児は2人と少子高齢化も進む。かつては大川バス小海線があったが廃線となり、タクシーのみが交通手段。小学校へは学校から3km以上離れている児童はスクールバスで通学し、高齢者はタクシーか家族・近所の助け合いで通院。買い物はタクシーや助け合いでの移動のほか、コープの移動販売を利用。公共交通は今後、より必要性が高まっていく状況である。
- ・小北委員:五名地区はバスが1日3便ほど。何人かの高齢者が通院に利用するが、バス停の近くに住む人で、バス停から遠くに住む人は利用していない。病院や買い物に行く場合は、仕事をしていない近所の方に送迎してもらおう。タクシーを利用する方もいるが、8,000円程掛かるので、車がないと自由に動けない。10年程前に市や社会福祉協議会にデマンドタクシーの話を持ち掛けたが、話は進んでいない。デマンドタクシーを導入している地域があれば運営方法や利用状況などを教えて頂きたい。
- ・田中委員:三本松地区は去年から福祉事業を立ち上げた。買い物や電球の交換、病院送迎などに取り組んでいるが、病院送迎は休止している。去年アンケートを行い、要望の多かった買い物や片付けについて今年から福祉事業として取り組んでいるが、送迎は机上検討や許認可権者へのヒアリングなどにとどまり、実際には動けていない。施設の前まで送迎車が乗り入れてほしいという意見が多かった。一方で、居住地側の乗降場所をどうするかという問題もあり、まだ検討中である。

- ・**福光委員**: 白鳥地区はまだ設立して1年ちょっとの協議会である。廃園・廃校になる施設を利用した地域サロンのようなものをつくりたい。その場で公共交通に関する意見を収集する場を立ち上げようかと考えている。敬老会の中でもお年寄りの要望などを収集していきたい。
- ・**寺元委員**: 丹生地区では、公共交通について1度だけ話をしたが、ドアツードアを希望する人、決められた場所まで歩き、そこでバスやタクシーに乗る人がいる。どこを軸にするかが一番の問題で、それにより移動のあり方が大きく変わる。自治会館まで歩くことすら苦痛という人もいる。目的・ターゲットをきちんと考えたい。
- ・**清川委員**: 福栄地区は五名地区の手前でバス路線はあるが、過疎化で高齢者が多い。バス・タクシーで病院に行く人は多少いるが、数は把握していない。数年前にデマンドタクシーのようなものがあればという話はあったが、それ以降盛り上がっていない。また、市内をバスで移動する分には料金があまり掛からないが、他市の病院などに行くと一気に料金が上がり、負担が大きいので対応を考えてほしいという意見があった。
- ・**江川委員**: 本町地区では5月14日にコミュニティ協議会が立ち上がり、3回目の会合で、買い物に不便を感じる人がいるという意見が出た。足をコミュニティで確保するというのは大きい話であり、漠然としているため、アンケート実施も含めて行政に相談したところ、一緒に考えないかと市から話を頂いた。本町地区は最も多い1,800世帯、自治会に加入していないところを含めると2,000世帯を超える。自治会が13あり、300世帯を超える自治会もあるほど。緻密に意見を吸い上げるのは大変だが、いかに年金暮らしのお年寄りでも住みやすい地域にしていくかを考えたい。
- ・**有馬委員**: 水主地区では高齢者が非常に増えている。さぬき市はコミュニティバスを走らせているが、バスは停留所まで歩く必要があり、歩いていけない高齢者も多くいるため、家まで送り迎えできるような公共交通を検討頂きたい。また、高齢者の事故が多いので、免許証を返納している方にはできるだけ早く市の方で回数券などを出してもらえればと思う。
- ・**熊本委員**: 引田地区はコンビニやスーパーが近く、同居世帯も多いので公共交通の緊迫感は無いように思うが、今後送り迎えが不可能となる事態もあるだろう。便利な状況が前提にならないようにしたい。また、ファミリーサポーターとして子供の送迎をしているが、子供を預かるので安全安心に送迎することを前提に動いている。
- ・**田村委員**: 中山間地域に住んでいる。3年前に県の農村振興課、香大生とふるさとづくりを開始し、全世帯にアンケート調査を行った。免許返納も増え、高齢者のみの世帯も多い。そういう方の通院や買い物に不便を感じているのが現状。近くにお店も無いので、玄関から玄関までは無理でも、なるべく身近なところまで送迎できるようになれば高齢者の免許返納も増加が見込めるのではと思う。
- ・**宮崎会長**: デマンドタクシーはこれという定義はなく、地域にあわせて運用している。以前、五名地区で要望があり伺ったが、タクシーの営業所がかなり遠く、そこからの配車は現実的では無かったため、他の手段を考えたいと思った。とはいえ、協議会で色々調査を行い、そこから見えてくるものもあると思うので、また考えてみたい。三本松地区では病院の送迎がネックとあったが、どういう点か具体的に。
- ・**田中委員**: 乗降場所や時間が合わないことが理由。病院に行きたいが近くまでしか行かないということ。病院は人により、かかる時間が長かったり短かったりするので、バスで対応できるのか。有償ボランティア輸送を考えたが、有償の場合、自分たちで運転するにはデメリットがあり、タクシーを使うと料金が非常に高くなるということで結論が出ず、保留状態。隣町のコミュニティバスを見て利用者が少ないことを地域の人も知っており、なかなかバスをという議論にも持っていきづらい。
- ・**宮崎会長**: コミュニティ協議会で実施したアンケートは、事務局で把握していたか。
- ・**事務局**: ボランティア輸送について相談頂き、また、原副会長との取り組みの中でアンケート調査を実施していると承知している。ボランティア輸送は、三本松地区で家事援助の一環として病院への送迎もできないかと運

輸支局に相談したが、バスやタクシー事業者がある中でボランティア輸送は難しいのではとされている。

- ・宮崎会長: 今回のアンケート調査は、コミュニティ独自のアンケートと重複しないのか。
- ・事務局: 3,000人の無作為抽出で、若い世代含め市内全域、全世代対象。また、総合戦略に関連して過去5年の成果と今後のまちづくりに向けたアンケートも兼ねて調査する。極力重複しない内容で考えたい。
- ・宮崎会長: コミュニティ協議会からも答えてもらえるように支援してほしい。今のところの意見では高齢者が中心の意見だが、高齢者以外の若い世代の意見は聞かれていないか。

(特に意見無し)

- ・宮崎会長: 今後、小中学校の統廃合が進み、スクールバスが運行されると、公共交通の需要の分散、また、近所に容易に遊びに行けない状態となることが懸念される。地域での子供たちのコミュニティがどうなっているか気になるので、将来を担っていく人材が、東かがわが嫌だと逃げていくことの無いように、今後気にかけてほしい。このほか事業者から何かあれば。
- ・上野委員: ほぼ路線を変えずに何十年も走っているが、経営が苦しくなっている。隣町のコミュニティバスは利用状況が悪いということも把握しており、同じものと同じようにするのではなく、意見を頂いて有効なものにしていければと思う。白鳥温泉ができたときに、路線の要望があり、当初は多くの人で賑わったように、なんらかの核となるものが地域にあり、そこに行きたいという人が増えれば、活気が出てくるのではと思う。義理の母が少しボケてきて1週間に1回に病院に連れていっていたが、送迎が負担になったのでバスで行くようになったところ、ボケが改善された。誰とも口をきかないような生活からバスに乗るようになって変化が出てきたように思う。出かけるということを前提に地域で考えて頂きたいと思う。
- ・原田委員: 地元の会社として我々、運転士も地元で生活しているが、なかなか採算が取れず、客が少ない状態である。運転士は辛抱してやってくれているが、今は数も少なく、全国的にも運転士の高齢化が問題で、高松市でも平均65歳、当社も70歳近くである。利用者はほぼ買い物や病院。通常、タクシーは2分停まったら80円上がるが、時間を区切らずに距離でやったり、時間だけで区切って運行している。とにかく今は現実的にタクシーも厳しい状況であるので、協力できるところは協力していきたい。
- ・木村委員: 弊社も同じ状況である。乱暴な考えだが、市営タクシーも良いかもしれない。バス停まで行けない人も多い。病院も予約制になっており、予約時間に間に合わないという苦情も多い。小学校の送迎もマイクロバスで実施している。その車両を有効利用して、水主地区のほか大川バスが走っていないところに走らせてはと考えているが、市営タクシーが一番喜ばれるのではと思っている。
- ・灘井委員: 高速道路の延伸などで経営が厳しい。ピーク時から鉄道の営業利益は4割減。東かがわ市では三本松駅1,281万人(平成元年度)が721万人(平成30年度)と約半減した。公益性の高い事業だがボランティアではなく株式会社でもあり、できる範囲の対応しかできない。我々も運転士が不足しており、事業サイズが縮小している。バスでは乗らないと無くなるという意識がある気がするが、鉄道はあって当たり前とされている。JRも事業者であり、使われなければ減便され、無くなるということも意識に置いて頂くことが重要と思う。ターゲットをどこに置くか、誰を対象に地域の交通を作っていくかにもよるが、鉄道との連携も考えながら地域の交通を考えてもらい、我々としてもできるところで協力させて頂きたい。
- ・宮崎会長: トラックは運転士不足などの取組が進んでいるが、バスやタクシーも同じ状況。75歳ぐらいまでの方が運転し、県内のタクシードライバーは60~70歳に偏っている。さらに担い手がいないので、稼働台数は少ない。県内は流しのタクシーは基本的になく、電話で配車を断られることもあるが、その辺りのご意見がなかったと思う。平日はそういう感じであり、土日は中高生の部活で運動公園の近くにバスを仕立てる状況では無い場合にタクシーがかなりひっ迫している。JRも普通列車が減便され、気づいたら減っている。
- ・川中委員: 2~3日前に男性高齢者の事故があった。非常に軽微なものだったが、すでに運転免許証の自主返納

をされた方で、返納後なのに運転し、ましてや国道 11 号を走っていた。公共交通をよっぽど利用できない状況だったのか分からないが、高齢者の事故を減らすための事業が、足を奪うことにならないか懸念する。協議会での警察の立場は許認可の部分と思う。側方支援的なものになるが、協力していきたい。

- ・宮崎会長:警察の方々には、交通に障害があるか、バス停を設置して問題ないかなどの観点で見て頂きたい。免許返納の話も出てくると思うので、全く無関係ではない。数年前から高齢者の認知症検査が厳しくなり、公共交通には追い風だねと言われたことがあったが、「無免許運転が増えるのでは？」と回答した。外出すると人は元気になっていくこともあるが、どうサポートしていくかが大事。バス・タクシーにお願いするとしても担い手がいない状況もあるので、その辺りも課題と思っている。多くのメンバーに入って頂いているので、いろんな情報を提供していきながら、各地域に何が良いかを考えていきたい。
- ・松本委員:特に委託業者に期待したいのは、目標達成のための施策やモデル事業の実施支援である。モデル事業で持続可能なものをつくれればと思う。市内の JR の駅との結節の観点も考えていきたい。
- ・柴山委員:交通だけでなく地域を考える必要がある。学校教育との連携、病院への接続、にぎわいをどう守っていくかという観点でふるさとづくりも大事。公共交通だけでは限界があるので、トータルで考えていく必要がある。いろんな部署で連携してほしい。また、公共交通を育てていくことで様々なメリットがある。公共交通を使い歩くことで健康寿命が伸びる、環境に優しい、交通事故が減るなど。車だけでなく公共交通も使って移動する子どもたちは「まち」を良く知っている。高校までバス等に乗ったことが無いような子供たちが就職するときに、バスやタクシー、鉄道を就職先を選ぶかという厳しいと思う。今の公共交通の問題点につながることもある。車が運転できなくなると公共交通に、という意見があるが、車に乗れないと公共交通にも乗れない。小さいころから公共交通を日々利用する意識づくりも併せて行っていく必要がある。
- ・原田委員:普段タクシーに乗ったことが無い人はタクシーを利用しない。タクシーがこんなに便利なのかと思ってもらえれば使ってもらえると思う。自家用車の保険や車検なども含めるとタクシー利用は安上がり。皆さん方にタクシーを使ってもらえるようにするのもあり得ると思う。
- ・宮崎会長:地方だと車が便利という話もあるが、車だと駐車場を探さないといけなくて、空いていない時にイライラすることもある。タクシーだとお金を払えば良いので意外とメリットがある。
- ・久保委員:スクールバスについて、昨年度まで学校教育課にいた立場から申し上げたい。市内ではマイクロバス 8 台で小中学生を中心に運行。学校から遠い子はスクールバス、五名地区についてはジャンボタクシーで送迎。8 時～昼頃までは空いているが、14 時頃～17 時頃までは稼働し、平日は有効活用できない状況。土日は中学校の部活の遠征などで使っている。バスの購入は学校送迎の目的で国の補助を受けているため、他用途に使いづらい状況。便利になるのはよいが、総務部として財政面を懸念しており市の財政負担をどのくらいにするかも考えたい。
- ・小田委員:私の子供が受験で初めてバスに乗った時、お金の払い方が分からず、降りるときに同級生を見て慌てて支払ったが、車内に財布を忘れた。どうしてバスに乗せなかったのかと責められたことがあり、バスやタクシーに乗せておけばよかったなと思った。市民部では、タクシーチケットの配布を検討する予定。協議会で検討したいと思うが、できれば関係する委員の方々とも議論していきたい。
- ・宮崎会長:他の中核市ではバスはおろか JR にも乗ったことが無い人が 20 代前半でもいる状況。タクシーチケットはワーキンググループを立ち上げることになると思うが、事務局にもご配慮頂きたい。
- ・事務局:承知した。
- ・酒井委員:今日の創生会議の中でのキーワードが交流人口と関係人口の増加であった。今年度、観光基本計画を市で策定予定であるが、地域の方だけでなく、市外の方も使いやすい公共交通を目指したい。コミュニティ協議会とも連携し、公共交通が届かない部分の補完、利便性の高い接続を考えたい。

- ・宮崎会長:住民が利用しやすいということは、外から地域に来やすいということ。デマンドタクシーだと会員制をとることが多く、地域外の人はいづらくもある。海外では、公共交通を無料にしているケースもある。税金が多く投入されているが、地域外の人でも利用しやすく観光人口・交流人口増加へとつながる。
- ・県 交通政策課:MaaSの展開がよく新聞で報道され、関心を持っている。伊豆や九州、福岡といった観光地や大都市近郊等でサービスが始まっているが、東かがわ市のような地方都市・田園都市型の地区では参考になる事例はあまりない。引き続き情報収集に努め、活用できる部分があれば提供していきたい。
- ・宮崎会長:県には広域的な観点からのアドバイスを期待する。MaaSは、Mobility as a Service、移動をサービスとして提供できないか、移動手段単体ではなく、総合的に捉え、利用しやすくするような取組。
- ・小北委員:五名としてはこういう議論ができる場ができて非常に喜んでる。私は仕事で松山に行くと、ホテルに車を停めて取って電車に乗ることがある。それは、電車に乗ると楽しいから。バスでも、バスに乗ると楽しい仕掛けがあると良いのではないかと。また、さぬき市と東かがわ市が提携できないかと思う。さぬき市のコミバスも利用が少ないようだが、近くの大窪寺をコミバスが通るので、地区の住民の中には、わざわざコミバスに乗りさぬき市のザ・ビッグへ買い物に行く人もいる。連携することで利便性が高くなればと思う。
- ・原副会長:現実的には地域で様々な課題を抱えていると分かった。瀬戸内海の島の福祉を調査する中で、アンケートを取ると、島なので交通の便が悪い、お店が少ないという不満が大きく、日常の移動だけでなく楽しむための公共交通が望まれていることが分かった。地域づくりの一環としてという話も出たが、複合的に、観光や地域活性化といったプラスの面以外も含めて、地域で考えないといけないと実感した。
- ・宮崎会長:行政では拠点整備、施設整備をよくするが、そこまでどう行くかの検討がされず終わることが多い。話を聞く中で、福祉とのすみ分けが分かりにくくなることもあると思うが、計画策定・調査を進めていく中で何を対象にするかを整理していくべきと思う。他の協議会もだが、公共交通と福祉交通は考えられているが、その中間地点の人たちが見過ごされているのではないかと。市民部は福祉担当と理解しているので、連携を取りながら、限られた財政を有効活用しつつ、地域に適したサービスの提供ができればと思う。
- ・熊本委員:地区ごとのタクシーの利用頻度や利用実態が分かるのか。
- ・原田委員:データはある。地域で異なる傾向だが、引田方面は利用少なく、自家用車の利用多い。
- ・宮崎会長:必要に応じデータ提供をお願いしたい。様々な観点で地域ごとにアンテナを張って頂きたい。

9 その他

- ・次回の開催時期は、12月を予定。
それまで、市とバイタルリードでの市民アンケート、ヒアリング調査を進めるが、関係者へは個別に連絡を取りながら進めていく。

以上